










## 「特別支援教育の充実に向けた方針」の進捗状況について

令和8（2026）年6月11日



教育委員会事務局特別支援教育課

進捗度の区分	
★★★★	事業として実施し、概ね目標を達成
★★★	事業として実施し、推進中
★★	実施に向けて予算化又は着手
★	実施に向けて対応を検討中









項目	目標	現在の進捗度 (前回 R7.4月)	R7までの対応実績・R8対応予定 ※下線部は新たな実績等	今後の対応方向		
1 幼児 児童 生徒 の 指導 ・ 支援	(1) 特別 支援 学校 の 教育 環境	①教室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富屋特支校の狭あい化解消のため、岡本特支校（病弱）に新校舎を整備（岡本特支校に知的障害教育部門を併設する）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎整備の基本計画を策定（R7.9月公表）</li> <li>・<u>新校舎建設の基本設計</u>（R7.9月補正予算及び継続費）</li> <li>・<u>用地取得の完了</u>（土地開発基金を活用）</li> <li>・<u>土地造成工事設計</u>（R8当初予算）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールに基づき着実に整備を進める R12.4月 一部供用見込 R14.4月 全面供用見込</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特支校全体の狭あい化の解消、センター的機能の強化（小・中・高等学校の空き教室や県全体の学校の配置状況等を踏まえ、分教室等の設置を検討）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町の担当者会議で方針を説明</li> <li>・<u>特支校の現地調査等を実施</u></li> <li>・R8.4月から特別支援教育課に「<u>学校整備チーム</u>」を設置し、具体策の検討に着手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭あい化の解消等に向け、各特支校の実情に即した具体策を速やかに検討</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎のバリアフリー化の推進（段差の解消、トイレの改修等）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対策が必要な10校のうち7校のバリアフリー化工事を完了（R6.9月補正予算・R7当初予算）</li> <li>・<u>残る3校のバリアフリー化工事を実施</u>（R8.当初予算）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、施設の修繕等を実施し、バリアフリー環境を維持</li> </ul>	


項目		目標	現在の進捗度 (前回 R7.4 月)	R7 までの対応実績・R8 対応予定 ※下線部は新たな実績等	今後の対応方向	
1 幼児 児童 生徒 の 指導 ・ 支援	(1) 特別 支援 学校 の 教育 環境	② 食堂・ 厨房	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化、狭あい化の状況を踏まえ、計画的な建替・改修（安全・安心な環境における食事指導を充実、栃木特支校と那須特支校は、早急に対応）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃木、那須特支校の食堂・厨房整備の基本計画を策定 (R6.9 月補正予算)</li> <li>食堂棟新築工事の実施設計 (R7 当初予算)</li> <li><u>食堂棟新築工事</u> (R8 当初予算及び継続費)</li> <li><u>旧食堂棟解体工事の実施設計</u> (R8 当初予算及び継続費)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食堂棟の供用開始</li> <li>旧食堂棟解体工事</li> </ul>
		③ 生活訓練施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>多機能化（卒業後のグループホーム等での生活を想定し、個室等を整備）</li> <li>バリアフリー化（肢体不自由児も利用しやすい浴室、トイレ等の改修）</li> <li>授業や校内宿泊学習等における活用を推進</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修が必要な 8 校の生活訓練施設の基本計画を策定 (R6.9 月補正予算)</li> <li>2 校の実施設計及び改修工事 (R7 当初予算、<u>R8 当初予算及び継続費</u>)</li> <li>3 校の実施設計 (R8 当初予算)</li> <li>生活学習指導員（寄宿舍指導員）を配置し校内宿泊学習等の指導・支援に参画 (R7 栃木・那須、<u>R8～全ての知的特支校</u>)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 校の改修工事</li> <li>残る対象校（3 校）についても計画的に改修工事を実施</li> </ul>
		④ 通学保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールバスの運用改善等（研究機関と連携し、乗車人数・時間の改善を目指した効果的・効率的な運行方法の検討）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮大学と連携し、効果的なスクールバスの運行モデルを検討</li> <li>増車分を含め県内全域で計 47 台のスクールバスを運行 (R7 当初予算～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年度、児童生徒の入れ替わり等に対応した効果的な運行計画の見直しを継続</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>寄宿舍（知的障害）の遠距離生へスクールバスを配車（栃木特支校 1 台、那須特支校 2 台）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃木特支校 1 台、那須特支校 2 台のスクールバスを増車 (R7 当初予算～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールバスによる通学保障を継続</li> </ul>

項目		目標	現在の進捗度 (前回 R7. 4 月)	R 7 までの対応実績・R 8 対応予定 ※下線部は新たな実績等	今後の対応方向	
1 幼児 児童 生徒 の 指導 ・ 支援	(2) き め 細 か な 指 導 ・ 支 援	①教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特支校でカリキュラム・マネジメントの取組を推進（有識者の知見等を活用し、一人ひとりの障害の状態等に応じた指導・支援を充実）</li> <li>・ 効果的な支援を保護者と共有する組織的な取組の実施（家庭での様子を踏まえた個に応じた指導の充実、動画等を活用した効果的な支援の共有等）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全特支校を対象とした担当者会議を開催</li> <li>・ R7 からモデル校（のざわ、益子特支校）に有識者を派遣し、カリキュラム・マネジメントの取組を研究</li> <li>・ R8 もモデル事業を継続し研究成果を取りまとめ</li> <li>・ 保護者との連携の工夫について、各校の好事例を共有し、全特支校で活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル校における研究成果をまとめ、県内各校で活用</li> </ul>
		②医療的ケア児への支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校看護師の配置を拡充（コーディネーター、チーフの配置）</li> <li>・ 医療的ケアの実施体制を強化（医療機関等との連携による研修、校外学習への学校看護師の同行や小・中学校等への支援の充実等）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R7 までに指導的な役割を担う学校看護師（コーディネーター、チーフ）計 11 名を配置</li> <li>・ 校外学習への学校看護師の同行</li> <li>・ 医療機関等との連携による研修の強化</li> <li>・ 市町の小中学校等への支援の充実</li> <li>・ <u>非常勤学校看護師の報酬引き上げ</u>（R8 当初予算）</li> <li>・ <u>修学旅行など宿泊を伴う校外学習に看護師が同行するモデル事業の実施</u>（R8 当初予算）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療的ケアを必要とする児童生徒の増加やケア内容の高度化に対応するため取組を継続</li> </ul>
		③交流及び共同学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織的、計画的な実施の仕組みを構築し、特支校と小・中学校等との継続的な交流を推進（クラブ活動など、興味・関心に応じた活動への継続的な参加等）</li> <li>・ 小・中学校等の教員への理解促進（市町教育委員会と連携した研修の充実等）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居住地校交流について、モデル校（日光市立大室小・今市特支校）に有識者を派遣し、効果的な取組を研究</li> <li>・ <u>学校間交流について、モデル校（足利工業高等学校・足利中央特支校）に有識者を派遣し効果的な取組を研究</u></li> <li>・ 市町担当者への発信や教員向けの研修を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル校における研究成果をまとめ、県内各校で活用</li> </ul>

項目		目標	現在の進捗度 (前回 R7. 4 月)	R 7 までの対応実績・R 8 対応予定 ※下線部は新たな実績等	今後の対応方向
1 幼児 児童 生徒の 指導・ 支援	(2) きめ 細かな 指導・ 支援	④生活に関する指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄宿舍指導員を特支校（知的障害）へ配置（寄宿舍指導員が教員と共に授業や宿泊学習等の指導・支援を実施）</li> <li>・ 障害の状態等や指導目標に応じた宿泊学習の実施（生活訓練施設を活用し、小集団での宿泊、個室での宿泊、夕方までの日帰り学習等）</li> </ul> <p style="text-align: center;">             (☆☆)         </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワーキンググループを開催し、実施に向けた具体策を検討</li> <li>・ R7 は先行して、栃木、那須特支校に寄宿舍指導員を生活学習指導員として配置し授業や校内宿泊学習に参画</li> <li>・ 指導事例の蓄積を図るとともに、全ての特支校（知的障害）への配置に向けた指導資料を作成</li> <li>・ <u>R8 から全ての特支校（知的障害）に生活学習指導員を配置。指導資料を活用し、教員と共に授業や校内宿泊学習に参画し生活に関する指導・支援を実施</u></li> <li>・ <u>生活学習指導員等連絡会議において、各校の取組における好事例等を共有し、指導資料を更新</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄宿舍指導の知見等を活用し、生活に関する指導・支援の充実に向けて取組を継続</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期休業中の宿泊学習の実施（寄宿舍指導の知見を活用し、生徒の自主的な集団活動により、自立心等を育成）</li> </ul> <p style="text-align: center;">             (☆☆)         </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R7 は盲学校の寄宿舍を会場に夏季休業中の宿泊学習を実施（特支校6校から17名参加）</li> <li>・ R8 は聾学校の寄宿舍を会場に夏季休業中の宿泊学習を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R9 以降も寄宿舍設置校の持ち回りで取組を継続（会場：盲→聾→のざわ）</li> </ul>	

項目		目標	現在の進捗度 (前回 R7. 4 月)	R 7 までの対応実績・R 8 対応予定 ※下線部は新たな実績等	今後の対応方向	
2 家庭、 教育及び 福祉等の 連携	(1) 教育と 福祉の 連携	①教育と福祉の支援情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と障害福祉サービス事業所等で「個別の教育支援計画」等を共有（共有を推進する資料を作成・活用し、学校や放課後等デイサービスなどで、必要な支援を受けながら安心して生活ができる体制を充実）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「個別の教育支援計画」等の共有に向けた啓発リーフレットを作成（R7 当初予算）</li> <li>啓発リーフレットを活用し、<u>障害福祉サービス事業所等へ支援情報の共有を働きかけ</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援情報の円滑な共有による切れ目ない支援体制の充実に向けた取組を継続</li> </ul>
		②教育と福祉の担当者間の関係構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町の保健福祉部局が主催する会議（自立支援協議会等）への教員の参画（保護者の相談に応じて、速やかに福祉へつなぐため、顔の見える関係を構築）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町と連携し、特支校の教員が福祉部局主催の会議へ参画</li> <li>会議において<u>学校の取組や課題を発表するなど、教育と福祉の相互理解を推進</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に連携できる関係性の構築に向けて取組を継続</li> </ul>
		③教育と福祉の担当者の相互研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員を障害福祉サービス事業所等に派遣（3か月間）する研修を実施（教員の福祉制度の理解促進や卒業後に向けた在学中の指導の充実を図る研修。成果を全特支校で活用）</li> <li>障害福祉サービス事業所等職員の特支校主催の研修会などへの参加を促進（学校の教育活動に関する理解啓発）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員を障害福祉サービス事業所（生活介護、就労継続支援、グループホーム等）に派遣する内地留学を実施（R7 実績：3名、R8 も継続）</li> <li>障害福祉サービス事業所等への学校公開・研修会に関する情報発信を強化</li> <li>研修での<u>気づきや学びを全特支校で共有</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の生活を見据えた指導・支援の充実に向けて取組を継続</li> </ul>
		④福祉サービスの向上に向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスの向上に向けた市町等との連携を強化（放課後等デイサービスや短期入所等の保護者ニーズを把握し、市町と情報を共有）</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害福祉課と連携し、全特支校保護者へ短期入所のニーズ調査を実施</li> <li>コミュニティ・スクールを活用し、特支校保護者のニーズを市町担当者と共有する取組を推進（R7：4校で意見交換等を実施、R8：6校に拡充）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者ニーズに合致した福祉サービスの提供が図られるよう取組を継続</li> </ul>

項目		目標	現在の進捗度 (前回 R7. 4 月)	R 7 までの対応実績・R 8 対応予定 ※ <u>下線部</u> は新たな実績等	今後の対応方向	
2 家庭、 教育及び 福祉等の 連携	(2) 保護者 支援	①学校に おける 相談支 援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の座談会や相談会等の充実 (保護者同士の交流が深まる「親学習プログラム」等の活用)</li> <li>校内の相談担当教員の明示(進路、保健、子どもとの関わり等)</li> <li>専門家等を活用した相談支援の充実 (スクールソーシャルワーカー、スクールサポーターの活用、県総合教育センター来所相談の情報提供等)</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の座談会等を各特支校で強化</li> <li>各特支校で相談担当教員の明示を実施</li> <li>外部専門家等を活用した相談支援の充実について、各特支校で実施</li> <li>栃木県教育支援センター(R8 設置)との<u>連携強化</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が不安や悩みを抱えた際に、学校が相談の受け皿になれるよう取組を継続</li> </ul>
		②教育や 福祉等 に関する 情報 提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS やホームページ等を活用した情報発信の強化 (家庭教育の手がかりとなる学校の取組、進路先となる障害福祉サービス事業所の情報等の積極的な発信)</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS やホームページ等を活用した情報発信を各特支校で強化</li> <li>各特支校の工夫や好事例を共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各特支校の情報発信力の底上げを図りながら取組を継続</li> </ul>
	(3) 教育と 地域の 連携	①特別支 援学校 におけ るコミュ ニティ・ スクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の取組を推進 (地域住民との交流や相互理解の促進)</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>R7 までに4校(国分寺特支校、富屋特支校、鹿沼分校、栃木特支校、足利中央特支校)で取組を推進</li> <li>R8 から2校(富屋特支校、今市特支校)を加えた計6校で取組を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての特支校(16校)でコミュニティ・スクールの取組を推進</li> </ul>
		②卒業後 の学習 機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関(市町、大学等)と連携し、在学中から卒業後の学びの場への体験的な参加を推進 (スポーツや文化芸術活動、生活に役立つ知識・技能を学ぶ教室等)</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての特支校において高等部の生徒が卒業後の学びの場へ体験的に参加(R7 実績: 約 440 名、R8 も継続)</li> <li>卒業後の学びの場に関する情報を生徒や保護者等へ発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の学びの場を提供する関係機関と学校、保護者等とのネットワーク作りに向け、取組を継続</li> </ul>

進捗度	R7. 4 月	【現在】 R8. 6 月
事業として実施し、概ね目標を達成	 1	1
事業として実施し、推進中	 6	18
実施に向けて予算化又は着手	 12	1
実施に向けて対応を検討中	 1	0
計	20	20